

企業名： INPEX

レポート名： 統合報告書 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

INPEX は石油・天然ガスの探鉱、開発、生産の事業を中核とする企業である INPEX の大きな目標として 2050 年に温室効果ガスの排出量を実質 0 にするネットゼロカーボン社会に向けて、2050 年に自社排出ネットゼロカーボン等の気候変動対応目標を掲げている。このネットゼロに向けて、INPEX はネットゼロ 5 分野と、石油・天然ガス分野について 2022-2024 中期経営計画、2030 年、2050 年に分けて具体的な数値を用いて実現までの過程を示している。また、実現への方法として新潟県柏崎市での水素・アンモニア製造・利用一貫実証や森林保全事業への事業参画を目指すなどが挙げられており、分かりやすくまとめられている。

統合報告書からネットゼロカーボン社会の実現が INPEX の目指す姿であると読み取れ、目標の規模としては申し分ない上、それに向けた方法もある程度無理はない範囲であると理解できる。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

INPEX の強みについて、まず日本の年間エネルギー消費量の約 1 割を供給しているということが書かれている。INPEX は日本企業の中で原油・天然ガス生産量が最大であり、生産量の多さは世界各国に多くの拠点を持っていることを示しており、これはわかりやすい強みだと考える。

次に多様な価値観を持つグローバル人材で形成される企業風土について挙げられている。確かに多様な価値観にふれられる企業は魅力的である。しかし、INPEX の競争相手は総合商社をはじめグローバル企業が多いのでこれは他の企業と比べると強みとは言えないと考える。

最後に高い技術力と研究開発体制が挙げられている。I-RHEX 発足など研究開発に力を入れていることは読み取れるがどの程度の強みなのか判断できない。

エネルギー供給量の大きさから INPEX の存在の必要不可欠性が判断できる一方で、他に読み取れる企業の強みの部分は強みとして理解するのが難しい。そもそも企業の目指す姿に比べて企業の強みについての説明が少なく統合報告書を読んで競争優位性を理解するのは難しいと考える。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

競争優位性と間違いなく認識できるものとしてエネルギー供給量を挙げる。INPEX は世

界各国に豊富な油田、ガス田を持っている。この権益は他の企業より先行して入手した権利として手放されることはない。また、新たな油田、ガス田の開発、権益獲得を行っており、石油・天然ガスは化石燃料であることを憂慮した上でエネルギー供給量を確保することは可能であるとする。

競争優位性に持続性があるかということについて、これに関する事柄に具体的な言及がないが読み取ることは可能である。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

前述の通り、INPEX はグローバルな価値観であふれる企業風土を持っている。豊富な価値観に触れる機会が与えられるということは自身の価値を高めることに繋がると考える。また、統合報告書に人材戦略について書かれている。人材育成・開発として、多くの研修の機会が与えられたカリキュラムが提供され、グローバルレベルで活躍できる人材育成を行っている。また、2021 年には、次世代リーダー人材育成プログラムを実施している。これらのことから INPEX は豊富な研鑽を積むことができる企業であると考えられ、人的資本の価値向上の達成に繋がると考えられる。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

改善点として、企業の強み、競争優位性を具体的に示すべきだと考える。今回の統合報告書では強みと書かれている部分でもどこがどのように良いのか、どのくらい良いのかが判断しにくい、情報が足りないことがあった。企業の目指す姿については具体的に書かれており、その部分から競争優位性や、競争優位性にある持続性を補完、推測することはできる。しかし、明確に書かれておらず INPEX の強みはよく伝わらない。だから企業の強み、競争優位性を具体的に示すことで読み手に分かりやすくすることが改善できる点であると言える。